

ピース・ウイング長崎 会報

へいわ

153号

公益財団法人 長崎平和推進協会
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 平成 29 年度予算・事業計画
- アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム
- アジア青年平和交流事業
- 継承部会・平和案内人交流会、継承部会市民対象碑めぐり
- 設立記念事業 宮川泰夫氏講演会報告
- TOPICS! (第7回体験記企画展「原爆の記憶」ほか)



今年は過去最高の約 300 隻のクルーズ船が来崎します。原爆資料館にも海外の方がたくさん訪れています。



長崎平和推進協会が業務を受託している原爆資料館インフォメーション

平成 29 年度 予算と事業計画



長崎平和推進協会は被爆体験や原爆被害の実相を伝える様々な事業を行い、**核兵器廃絶**と**世界恒久平和**の実現を目指します。

予算の詳細は、当協会ホームページで

長崎平和推進協会 予算 🔍 検索



被爆体験講話



平和案内人のガイド

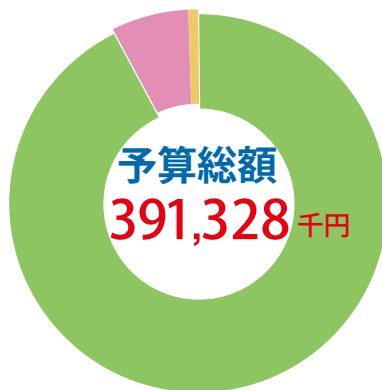
？ 公益目的事業とは

多くの人の利益になるために進めていく事業をいいます

予算の大部分を占めている公益目的事業は、当協会が独自に行っている平和推進事業、長崎市からの2つの受託事業（長崎原爆資料館原爆・平和総合案内業務、長崎原爆資料館図書資料収集整理業務）、**国からの受託事業**（国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業）です。

その他に、**収益事業**として原爆資料館内のミュージアムショップ（売店）を運営し、売り上げの一部を平和推進事業に繰り入れています。

また、**法人会計**とは協会全体の管理・運営を行う会計です。



■ 公益目的事業	370,055 千円
・ 平和推進事業	30,810 千円
・ 受託事業	339,245 千円
① 長崎原爆資料館原爆・平和総合案内業務	17,029 千円
② 長崎原爆資料館図書資料収集整理業務	5,226 千円
③ 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営業務	316,990 千円
■ 収益事業	18,791 千円
■ 法人会計	2,482 千円

支出

単位：千円

平和推進事業	30,810
発刊事業費	(1,177)
啓発事業費	(1,225)
調査研究費	(100)
育成事業費	(5,715)
人件費	(19,883)
その他事務費	(2,710)
法人会計	2,482
合計	33,292

次ページで、活動内容を詳しく紹介！

会費や寄付金を財源の一部としているのは、公益目的事業の平和推進事業と法人会計です。

収入

単位：千円

長崎市からの補助金	27,100
皆さまからの会費	4,580
寄付金	600
その他	12
原爆資料館売店売上の一部	1,000
合計	33,292

平成 29 年度
平和推進事業
法人会計



5,226 千円
② 原爆資料館図書資料整理
原爆資料館内の図書室で、原爆や平和に関する書籍の整理や資料の収集を行います。



17,029 千円
① 原爆資料館総合案内
原爆資料館の観覧料徴収やインフォメーションでの案内を行います。

受託している事業

皆さまからいただいた
会費や**寄付金**は
このように利用されます！

来年度は、被爆 72 年を迎えます。0 歳で被爆した方も、72 歳になります。
被爆者の高齢化に伴い、協会の役割も少しずつ変わってきます。

発刊事業

1,177 千円

会報「へいわ」（年 4 回）、
情報 BOX（月 1 回）や協会
の 1 年の活動をまとめた「平
和のあゆみ」の発行をととし
て、平和関連情報を提供し
ます。



育成事業

5,715 千円

部会活動

協会会員の自主的
活動を図るための
4 部会の活動を支
援します。



継承部会

写真資料調査部会



国際交流部会

音楽部会

啓発事業

1,225 千円

平和学習の実施

被爆体験講話者の派遣、平和学習用
の DVD・長崎原爆被災写真パネルの
貸し出しを行います。



講演会等や国連軍縮週間行事

講演会等や、国連軍縮週間に合わ
せてイベント「市民のつどい」を開
催し、平和への認識を高めます。



アジア青年平和交流事業

長崎の若者に平和に関する独自
の企画を立案してもらい、その
事業を支援します。



平和事業への支援

協会の活動趣旨と一致する事業などへ助成します。

秋月グラント

被爆体験の継承や平和意識高揚のための事業を実施す
る団体等へ助成します。

調査研究事業

100 千円

平和・軍縮関係の国際会議やシンポジウムへ参加し、
情報収集を行います。

人件費・その他事務費

22,593 千円

様々な事業を行うために必要な人件費、事務費に使用
します。

平和案内人派遣事業

案内を希望される方に対し、長崎
原爆資料館、追悼平和祈念館等の
説明や被爆遺構の碑めぐりを行う
平和案内人を派遣します。



18,791 千円

原爆資料館のミュー
ジアムショップで原爆
や平和に関する書
籍・グッズを販売し、
平和推進事業の財源
に充てます。

収益事業

316,990 千円

平成 15 年に開館した
「国立長崎原爆死没者
追悼平和祈念館」の
管理・運営を国から
受託して行います。

③ 追悼平和祈念館運営





平和な世界を実現するためにアジアの若者として何をすべきか…

アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム

2月2日から8日にかけて、追悼平和祈念館主催「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム」を実施しました。8回目となる今回は、マレーシア、韓国、中国から学生、先生計18人が参加しました。

初日は、被爆体験講話の聴講と原爆資料館の見学で原爆について学び、翌日からは活水高校平和学習部(当協会「アジア青年平和交流事業」認定事業)の企画に参加。「ふりそでの少女」の英語の朗読を聞いたり、デジタルコンテンツによる被爆直後の写真を見ながらの碑めぐりを行いました。また、「世界は今、平和だと思っか」などをテーマとしたグループディスカッションでは、核実験を行う国からの圧力に対抗するために核兵器を保有すべきかなど活発な議論を交わし、それぞれの国の考え方を共有しました。



グループディスカッション

schedule

- 2/2 被爆体験講話の聴講、原爆資料館の見学
 ・ 平和公園等の碑めぐり
 ・ ワークショップ (ナガサキ・アーカイブ)
 ・ グループディスカッション
 ・ 学生によるプレゼンテーション
 ・ 稲佐山の夜景見学、パーティー
- 2/8 市内視察



Malaysia

Korea

Japan

マレーシア

韓国

China

日本

中国



Dr. Nasrudin

マラヤ大学 人文社会学部
東アジア研究科 准教授

今年度の「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム」も成功裡に終了しました。色々な国の学生がこのプログラムに参加することは、若者の間において平和への理解を深める第一歩になると信じています。

また、マラヤ大学を代表しまして、学生たちに長崎で起きた悲劇を知る機会を作ってくださいました追悼平和祈念館の取り組みに心より感謝いたします。

この期間に学んだことによって、学生たちは核兵器が資源の無駄遣いであり、かつ市民生活を破壊するものであると気づかされたでしょう。

マラヤ大学からこのプログラムに参加した学生は、紛争解決の手段として暴力を使用することを拒否し、また核兵器を開発する国に反対しながら、子供たちに平和の大切さを伝え続けていくことをここに誓います。核兵器のない世界のみが我々にとって安全な世界であることができるからです。



長崎の若者が平和に関する企画を立案し、アイデアを重ねて実施！

アジア青年平和交流事業

3月12日、「自分たちが考える国際・平和交流プログラム」をテーマに、当協会のアジア青年平和交流事業に取り組んだ2チームが、これまでの成果を報告しました。

長崎県立大学シーボルト校は追悼平和祈念館が所蔵する被爆体験記をもとに、被爆者やその親族へインタビューを行い、その様子を撮影しました。その映像を主軸として、日本語の他に英語・中国語・韓国語に翻訳したものを作り上げ、YouTubeに投稿し世界に発信しました。

活水高校は、海外を含めた多くの学校との交流、絵本「ふりそでの少女」の多言語翻訳、首都大学東京の渡邊研究室が研究しているナガサキ・アーカイブとの連携など、様々な活動を行いました。

平和を発信する新たな手法と、それに取り組む若者の力を感じる報告会となりました。



成果報告会に参加した2校の皆さん

私たち「ふりそでプロジェクト」は、故・松添博さん作の「ふりそでの少女」の絵本を通じて原爆のおそろしさを訴える活動の他、修学旅行生や海外の団体と交流し、多方面から世界のあり方や平和について学んでいます。また、今年度からはアプリの「ナガサキ・アーカイブ」の活用にも取り組んでいます。

2月に行われた「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム」では企画・運営を行い、「ナガサキ・アーカイブ」を使って当時の状況を説明しながら慰霊碑等を巡り、ディスカッションやプレゼンテーションでは、相手の国の立場を学びました。

今回の交流を通して、相手を知ることは友好関係を築くいい方法だと思いました。これから世界平和を実現するには、アジアの地域との関係をなくしては不可能なので、今回の経験を大切にしていきたいです。

今回、私は長崎県立大学金村研究室「金村先生と愉快的な学生たち」のメンバーとして参加しました。私たちは若者に戦争について考えてもらうきっかけづくりとして、後世に戦争の事実を残すために動画を作成しました。協力者への取材を通していくうちに、数々の衝撃的な事実を知り、今こうして戦争のない世になっていることが本当にかげがえのないものなのだと痛感しました。

また、動画作成にあたり、ご協力いただいた戦争体験者の方々に「若い人たちがこうやって戦争の事実を残してくれる活動をしてくれて嬉しい」との声を掛けていただき、非常に勇気とパワーをいただきました。そしてこの言葉に、「戦争のない未来」を作るのは自分たちなのだという自覚を持つことができました。

今回のプロジェクトでは非常に多くの知識や経験を得ることができました。そしてこれからも積極的な活動を考えていきたいと思っています。

「ナガサキ・アーカイブ」とは…

被爆者の声や被爆当時と現在の写真をインターネットの地図上に表示し、情報を提供するものです。



活水高等学校 太田真帆さん



長崎県立大学 徳峰理恵さん



作成した動画が見れます！

YouTube「peacepiece プロジェクト」で検索！

被爆者の高齢化が進む今、被爆の継承のためには、被爆者と現在活動をしている「平和案内人」の皆さんや被爆体験記の朗読をする「永遠の会」の皆さんと交流することが一番大切なことだと考えます。



継承部会長
末永浩さん

交流をとおして
被爆の体験、平和の思いを遺す



継承部会・
平和案内人
交流会

1月29日、継承部会員（被爆体験講話者）と平和案内人（ボランティアガイド）の交流会を開催しました。ゆつくりと食事をしながら話せる貴重な機会でもあり、今回は79人の参加者がテーブルを囲みました。

継承部会の三瀬清一朗さんの司会進行で、継承部会長の末永浩さんの挨拶に続き、90歳の和田耕一さんが乾杯を行いました。継承部会員と平和案内人がそれぞれステージ上で日頃の思いを語ったほか、ご夫婦で活動をされている山川夫妻、杉本夫妻のお話や歌や詩吟の披露などもあり、なごやかな雰囲気のもと有意義なひと時を過ごしました。

普段はなかなか言葉が交わす機会がない方々が歓談し、たくさんの方のスピーチを聞くことができる時間となりました。お互い、交流を深めるきっかけとなったのではないのでしょうか。



- ① 継承部会員として活動されている山川夫妻
- ② 談話中の継承部会員と平和案内人の二人
- ③ 司会を担当した継承部会員三瀬清一朗さん

被爆者から後世へ **遺す** ～平和は人と人との触れ合いから～



家族3人で参加してくれた藤田さん

4月に長崎に引っ越してきて、今回初めて参加させていただきました。原爆のことは、本では読んだことはありましたが、実際に直接見て被爆を体験された方のお話を聞くと言葉の重みが違うことを感じました。転勤族ですが、長崎にいる間に原爆について勉強していきたいと思います。貴重な体験をありがとうございました。次回も是非参加させていただきます。



碑に込められた思いを、
被爆者が見た光景を遺す

市民対象
碑めぐり

継承部会員（被爆体験講話者）が自ら案内を行う「市民対象碑めぐり」を3月5日に開催し、約50人の市民の方々にご参加いただきました。今回は城山町周辺をテーマとして、被爆時の体験や被爆後に見た光景を中心に案内しました。

浦上川では被爆前後の様子を話し、被爆者の一人から「被爆直後は、原爆病院付近に網を張って流れてくる遺体を引き揚げた」等の体験も紹介されました。その後、戦勝祈願で通ったという護国神社や、戦後に先生の呼びかけで城山小学校の児童が集まった八幡神社の説明を行った後、11時2分に黙祷を捧げました。城山小学校では、被爆校舎や嘉代子桜の見学の他、工場となった校舎内で働いていた学徒動員や教職員のほとんどが犠牲になった話がありました。

最後に継承部会員の小峰秀孝さんが、生き残った被爆者の後遺症や差別等の苦しさを話し、「孫の世代に同じ思いをさせない為にも、核兵器がなくなるよう意識してほしい。」と締めくくって閉会しました。

碑めぐりコース

- 長崎市民総合プール前
- ↓
- 築橋周辺
- ↓
- 八幡神社
- ↓
- 城山小学校



設立記念事業

宮川泰夫氏講演会

であい ふれあい ひびきあい

～「のど自慢」

12年の旅から～

当協会では、会員の皆さまに平和への思いをさらに強くしてもらうことや、市民等に協会活動を広く知ってもらうことを目的に、毎年「講演会」を開催しています。

平成28年度は、2月19日に「のど自慢」の司会や「深夜ラジオ便」のアンカー等で知られている元NHKアナウンサーの宮川泰夫氏を平和会館ホールに迎え、「であい・ふれあい・ひびきあい」のど自慢12年の旅から」と題した講演をしていただきました。

当日、同氏はおなじみの「のど自慢」のオープニングメロディーにのり、聴衆約250人の手拍子に合わせて登壇。まず、NHKへ入局した初任地が長崎であり「第二のふるさと以上の思い」でいる

こと、その後、ニュースキャスターをはじめ報道畑で活躍し、ソ連崩壊などを伝える中で「自分を通して世界を伝えている」気分だったこと、そして「のど自慢」の司会者への辞令を受けたことの経歴を語りました。

「のど自慢」に従事するようになった当初は、「報道畑の自分がない」「のど自慢」…との戸惑いもあったそうですが、すぐに「のど自慢」の持つ意義や魅力を理解したとのこと。以来12年間約

600回、一度も休むことなく全国津々浦々を訪れて体験した中から、四つのエピソードを語りました。どの話も、出場者にまつわる人間模様が豊かに織りなす内容で、聴き入る人々の心に染み入るものでした。これらの出来事をはじめ色々な経験を重ねて、宮川氏は「人が歌う意味」や「テレビ視聴者の前で歌おうとする努力の貴さ」を意識するようになったそうです。

さらに、「人は歌うことにより

『心の栄養』を得ているのではないか…」「歌を仲介とする人間同士のやりとりの中で、幸せ感を共有しているのではないか…」との思いを強くしたそうです。そして、「幸せを共にする幸せ」を感じながら「のど自慢」とともに過ごした12年間だったということ。講演の終盤に、昭和21年に始まった「のど自慢」の初代司会者である高橋圭三氏のことを紹介しました。「平和で豊かな時代だからこそ、多くの民衆が声高らかに歌うことができる」。そして、「明るく、楽しく、元氣よく歌える時代がいつまでも続くこと」を念願して講演を閉めました。

非常に心が癒される話であり、当協会にとっても、平和希求の基盤となる心の持ち方などを考えるうえで、示唆に富んだ内容でした。



▲ 講演後に、追悼平和祈念館で献花を行う宮川氏





第7回体験記企画展「原爆の記憶」開催中

入場無料

追悼平和祈念館では、厚生省（当時）が収集し、祈念館のみで公開している被爆体験記集（通称：黒本）約3万編の中から、テーマに合わせて紹介する体験記企画展を実施しています。

第7回となる今回は「原爆の記憶」として、『光・色・音の記憶』『惨状の記憶』『幼い記憶』『水の記憶』『家族の記憶』『平和への思い』に分類し、短文で書かれた体験記を選びました。被爆者が書いた直筆の体験記の複写とともに、パネル18編、ファイリング約100編を展示し、原爆の惨状を伝えています。

期間：平成29年1月30日（月）～12月25日（月）
場所：追悼平和祈念館地下2階遺影・手記閲覧室

平和を訴えるシンボルに…

ドレスデンの空爆被災スプーン寄贈



追悼平和祈念館がドイツで実施した2016年度海外原爆展の一環として、昨年9月継承部会員の山田一美さんが現地では被爆体験を語り、ドレスデン空襲体験者のノラ・ラングさんとも対談しました。ラングさんは、空襲後自宅の廃墟で見つけたスプーンを山田さんに贈りました。「空襲の怖さは原爆と変わらない。たくさんの方に見ていただきたい」と2月13日、そのスプーンが山田さんから祈念館に寄贈され、2月19日まで祈念館交流ラウンジで展示されました。



ドイツでスプーンを受け取った
継承部会員 山田一美さん

「会員の広場」にお便りをお寄せください！

平和推進協会では、会員の皆さまよりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆さまの声をお寄せください。投稿いただいた声は、広報委員会を経て、「会員の広場」で会報「へいわ」に掲載させていただきます。

✉ E-mail アドレス : info@peace-wing-n.or.jp
〒852-8117 長崎市平野町7-8 (公財) 長崎平和推進協会「会員の広場」係

*投稿は、200字以内でお願いします。また、匿名の投稿は、ご遠慮ください。

世界の核弾頭の数（2016年6月1日現在）

ロシア	米 国	フランス	中 国	英 国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合 計
~7,300	~7,000	300	260	215	80	100~130	100~120	<10	~15,350

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

会員数報告

- ◎維持会員 1099人
- ◎賛助会員 144人
- ◎学生会員 12人

(平成29年3月21日現在)

賛助会員(団体・法人)の一覧は協会ホームページに掲載しています。
ご支援・ご協力誠にありがとうございます。

寄付者紹介

ありがとうございます

- ◎松本 美都恵 (敬称略) 二万円
- ◎松本 紘明 一万円
- ◎クリステラン・ジョン 四四〇円
- ◎大塚 研吾 二万円
- ◎匿名 一万二千元
- ◎匿名 一万円
- ◎匿名 二千元

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。
今年度まだ会費を納めていただけていない方は、何とぞ趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入ください。お願いします。
お支払いいただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。
詳しくは当協会ホームページをご覧ください。

